

試行調査を踏まえた中間年評価等のイメージについて（案）

評価項目	試行調査		評価のイメージ
	調査概要	課題	
1 集落等の取組状況・交付金に係る効果等			
(1) 集落協定			
① 集落協定の概要	—	—	—
② 集落マスタープランに定めた取り組むべき事項の達成状況	集落の将来像を実現するための活動計画について、目標達成の有無、指導・助言の必要性を調査。	協定期間（５年間）の活動計画と実施年度のリンケージを確認する必要。	各年度毎の活動計画の着実な実施の有無で判断。
③ 農業生産活動等として取り組むべき事項の実施状況 ア 耕作放棄の防止等の活動 イ 水路・道路等の管理活動 ウ 多面的機能を増進する活動 ※ 基本的に数値目標の設定を要しない。	左記ア～ウ毎に、水路・農道等の管理作業日数、景観作物の作付け延べ延長など実施状況調査の対象となったもの以外の実績を調査。	景観作物の作付け、魚類・昆虫類の保護などの活動は、定量的な実績調査が困難。	協定による活動の実施の有無で判断。
④ 自律的かつ継続的な農業生産活動等の進捗状況 ア 農用地等保全マップの活動 イ 地域の実情に即した農業生産活動等の継続に向けた活動 【要件 A】 ①生産性・収益向上、②担い手育成、③多面的機能の発揮	左記アについて、水路・農道等の補修・改良箇所数など実施状況調査の対象となったもの以外の実績及び目標(H21)達成状況に応じた指導・助言の必要性を調査。	中間年(H19)における数値目標の達成状況を定量的に判定するための基準を検討する必要。	協定による数値目標の○割以上の達成の有無で判断。（特定農業法人の設立など進捗状況の判定が困難なものは別途検討）

【要件B】 ①集落を基礎とした営農組織の育成、②担い手集積化 ※ 基本的に数値目標の設定を要する。	左記イの選択的必須要件A及びBについて、目標(H21)達成の有無、指導・助言の必要性を調査。	自然生態系の保全に関する学校教育等との連携などの活動は、定量的な実績調査が困難。	協定による活動の実施の有無で判断。
(2) 個別協定			
① 個別協定の概要	—	—	—
② 農業生産活動等として取り組むべき事項の達成状況 ※ 基本的に数値目標の設定を要しない。	(集落協定と同じ。)	(集落協定と同じ)	(集落協定と同じ)
(3) 加算措置 ※ 基本的に数値目標の設定を要する。	加算措置の項目毎に、目標(H21)達成の有無、指導・助言の必要性について調査。	中間年(H19)における数値目標の達成状況を判定するため、基準を検討する必要。	協定による数値目標の〇割以上の達成の有無で判断。(法人加算など進捗状況の判定が困難なものは別途検討)
2 成果と課題	—	—	—

その他	協定締結までの経緯と理由、話し合い参加者と回数、目標達成状況などをアンケート調査。	—	地域コミュニティの醸成や一体感の向上など集落機能の活性化について、アンケート調査結果等に基づき定性的に評価。
------------	---	----------	--